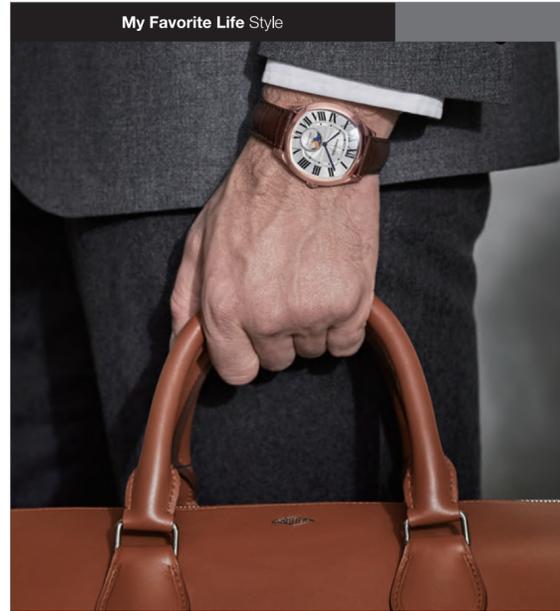


BIZ [ビズスタ] Life Style



タイムレスな引力。
カルティエ。



My Favorite Life Style

John Balsom © Cartier

ドライブ ドゥ カルティエ ムーンフェイス ウォッチ



CRWGNM0008
40x41mm, ピンクゴールド
2,473,200円(税込)

CRWSNM0008
40x41mm, ステンレススティール
915,300円(税込)

Vincent Walverlyk © Cartier

Drive de Cartier

自然体でいて、洗練。カルティエが描く、これからの男性像。

自然体で、自立し、エレガントに洗練された大人を描いた名品

今年「パンテールドゥカルティエ」の発表で沸いた「H」だが、昨年の会場の話題をさらったのは、カルティエの男性向けコレクションだった。「ドライブドゥカルティエ」は、1904年から現在に至るリストウォッチ製造技術の集大成として、大きな反響を獲得。たちまちベストセラーの角を占めるに至った。今年の「H」では、その地位をさらに固めるべく、新たな意匠が発表されている。

新作を見る前に「ドライブドゥカルティエ」の概略を簡単にさらしてあげよう。古典的な「クッション」を現代的な解釈で再構築したケースによく見ると「ヘクソン」(八角形)の形状に見えてしまうが、じつくりと眺めると「H」のモチーフが縦気楼のように昇り立ってくる。いつも自然体のように見える。その奥には洗練された知性と先端のライフスタイルを内包する。そんな現代の男性像が浮かび上がるウォッチに仕上がっている。

衝撃のデビューから一年を経て発表された新作コレクション

さて、今回の「H」では、2系統の新コレクションが注目を浴びた。「ドライブドゥカルティエ」ムーブメント「クッション」は、その名の通り月の満ち欠

「自分」を妥協しない男性たちへ。

けを示すインジケーターを搭載したモデルだ。同社が誇るスイス国内でも有数の一貫生産工場が新たに開発した自動巻ムーブメント「1904LUMIC」が搭載されているが、これは「2050」に度修正すればOKという極めて高い精度を持つ。デザインと機軸部分が非常に高い次元で融合する姿は、真の「マニファクチュール」を掲げるカルティエの現在をそのまま表すものだ。

もうひとつの「ドライブドゥカルティエ」は、この名前通りウォッチには「H」という薄さのケースが特徴。これはオリジナルモデルよりも約40%も薄い計算となるが、実はケースもひと回りコンパクトに削られているので、手に快適なフィット感や期待できそうだった。また、着け心地もさることながら、手元を見下ろすたびに斬新な薄さを確認できるので、ウォッチに詳しい方ほど所有する喜びを刺激されることになるだろう。

デザインは、全世界で絶賛を浴びた「ドライブドゥカルティエ」のイメージを踏襲。クラシックでノスタルジックなルックスに目を奪われつつ、その仕上げの美しさまでじっくりと味わうのが、大人のウォッチファンの嗜みだ。

* * *

毎年、後に「名品」と讃えられるモデルを送り出すカルティエ。次は、今年100周年を迎える「クッション」を紹介しよう。

ドライブ ドゥ カルティエ エクストラフラット ウォッチ



CRWGNM0006
38x39mm, ピンクゴールド
1,814,400円(税込)

Vincent Walverlyk © Cartier



John Balsom © Cartier



パンテールドゥ カルティエ ウォッチ



CRWSPN0007
27mmx37mm
MM, ステンレススティール
510,300円(税込)

Vincent Walverlyk © Cartier



CRWGPN0008
22mmx30mm
SM, イエローゴールド
2,214,000円(税込)



CRW2PN0006
22mmx30mm
SM, イエローゴールド, ステンレススティール
815,400円(税込)



CRWJPN0008
22mmx30mm
SM, ピンクゴールド, ダイヤモンド
2,624,400円(税込)



Eric Sauvage © Cartier

Panthere de Cartier

パンテールドゥ カルティエ



30年後の世界に再び響く女性賛歌。

それは年輪を感じさせる豊かな知性であったり、あるいは何もものにも囚われない自由な生き方であったり。大人の趣味の代表的分野である高級機械式腕時計の世界は、時を告げる機械に「デザイン」という概念が産まれたことで一気に深みを増した。時間を知る道具を服のように「着る」現在のウォッチの愉しみは、このメソンの功績が極めて大きい。

実に15を数えたという各国王室の御用達であったことから「王の至宝商、宝石商の王」と讃えられた「カルティエ」は、1847年パリで創業した。機構の誕生以来、時計業界は「いかに精緻なメカニズムであるか」を長く競い合ってきたが、カルティエは「美を味わう」というその後のスタイルを決定付けたのだ。

腕時計のブランドは、一般にムーブメントと呼ばれる機構部分の製造技術を有するウォッチメーカーと、それを包むケース部分を手がけるジュエリーに大別できる。ウォッチの大半は、両者が専門外の部分を委ね合いながら製品化されている。貴金属の分野で確固たる地位を築いたカルティエは、ジュエリーの代表格だったが、やがてムーブメントへの世界へと進出。すべての製造工程を自社内で完結することができた。世界でも数少ない「マニファクチュール」へと成長を遂げ、現在に至っている。

80年代の名作が突如登場。世界が驚いた新作コレクション

女性向けのジュエリーウォッチ

手は1800年代後半には制作し、もともと玉石商であった出自からも想像できる通り、人々を圧倒する美の世界は、女性向けのコレクションでも存在に發揮されてきた。たとえば、「パンテールドゥカルティエ」は、ファッションカルチャーが世界的に花開いた1900年代の活気と退廃を見事に表現し、人気を博した名作だ。時計とジュエリーは非常に近い関係にあるが、宝石やジュエリーと完全に溶け合うような官能的な美にまで引き上げたウォッチデザインは、同社の最高峰のひとつとして多くの女性たちの記憶に留まってきた。

そして、今年1月の国際高級時計展「S.I.H.H」で突如新作コレクションが発表され、世界中のプレスや顧客を驚かすに足した。新生パンテールドゥカルティエウォッチは、さらに美しいエッジで「女性の時代」を表現しつつ、しなやかなリンクのフレッシュトウエーミンな魅力を際立てたタイムピース。ジュエリーとともに着れば豊かに感じ、単体でカジュアルに着ればさりげなく微笑む。優美でクラマラスであると同時に、一入の女性としての精神性が波紋のように広がる複層的な「大人の美」の構築力は、さすがにカルティエのため息をつくしかない。

自分自身の「パンテリア」と「聖母」を正確に自覚し、人生の愉しみと喜びを味わう。オリジナルモデルの時代とは大きく変わった社会に生きる新たな女性賛歌。そんな同社の想いが伝わりてくる注目コレクションだ。

My Favorite Life Style

TANK

| タンク ウォッチ



タンク アメリカン ウォッチ
CRWSTA0032
27x15.20mm、ミニ、スチール
364,500円(税込)

2017年11月発売予定



タンク アメリカン ウォッチ
CRWSTA0016
34.80x19mm、SM、スチール
464,400円(税込)



タンク フランセーズ ウォッチ
CRW4TA0008
25.35x20.30mm、SM、スチール、ダイヤモンド
785,700円(税込)



タンク ルイ カルティエ ウォッチ
CRWGTA0011
33.70x25.50mm、LM、ピンクゴールド
1,458,000円(税込)

Vincent Walverlyck © Cartier

そのデザインを検証するには、まずシャープな角を持つフラットなケースの縦枠に注目してみるとよいだろう。下アタッチメントとの接点が隠されており、非常にシンプルなラインを形成していること

男性にも女性にも愛され続ける
アイコン的なコレクション

時は第一次世界大戦中、3代目であるルイ・カルティエは戦車の平面図からインスピレーションを得て、自らデザインを手がける。「タンク」と名付けられたこのウォッチの試作品はアメリカのジョン・パーシング將軍に贈られ、2年後の1919年に正式に発売。平和への切実な願いを込めながら一方ではカルティエらしい豊かな美を詰め込んだこのモデルはたちまち人気を集め、やがてメソンのアイコンとして長く愛され続けることになる。

ルイ・カルティエ本人が手がけた
1917年のレジェンドウォッチ

さて、今年注目のカルティエウォッチをもつひとつ紹介しておこう。上に掲載したのは、同社の眩いウォッチコレクションの中でもひととき有名な存在のひとつである「タンクウォッチ」。その歴史は、ちょうど今から100年前の1917年にまで遡る。

がよく分かる。自由でエレガントなエスプリは、カルティエらしさと同時にフレンチデザインの特徴でもあると言えるだろう。

タンクのコレクションには、いくつかのバリエーションが派生しており、現在は男女兼用モデルを中心に展開されている。写真右の「タンク ルイ カルティエ ウォッチ」は、ルイ自身も愛用したというオリジナルに最も近いデザインが保たれたモデルだ。左の2つは、上下方向のサイズを大胆に増して優美さを強調した「タンク アメリカン」。やはり男女兼用で、ミニモデルも追加された。中央右の「タンク フランセーズ」は、リストウォッチというよりもブレスレットウォッチと呼びたくなる美しさだ。今年で誕生100年となる「タンク」コレクション。今後がますます楽しみだ。

* * * *

ここまで駆け足で今年の注目コレクションを紹介してきたが、カルティエの世界観は、文字や写真だけで半分も伝わらないだろう。手に取って眺め、腕に掛けて確認すれば、人々が同社の製品を手放さない理由を感覚で理解できるはずだ。実物は下記店舗で体感できるので、ぜひ「美の高峰」の世界を覗いてみよう。

Biz Life Style Pick up >>>

香川県内唯一の正規販売店が
「カルティエ ウォッチコレクション - クリスマス2017-」を開催



EYE EYE ISUZU

アイアイイズズ

香川県高松市多肥下町1523-1

TEL.087-864-5225 営業時間/11:00~20:00 無休

カルティエの美の世界は、文字と写真ではその魅力の半分も伝わらない。県内唯一の正規販売店が高松市にあるので、実際に手に取ってことをおすすめしたい。

「アイアイイズズ」は、全国でも屈指の品揃えを誇るカルティエコーナーを展開中。最新のコンセプトに基づくディスプレイとともに、新作から定番モデルまで豊富なコレクションが揃う。12月1日~24日には、クリスマスシーズンの特別フェアの開催も決定。期間中は展示も強化されるので、大切な人へ、そして自分へのプレゼント選びに最適だ。

人々を虜にするカルティエの世界観を肌で実感する絶好の機会。フェアの詳細は下記まで。

取り扱いブランド

カルティエ、ランゲ&ゾーネ、ヴァシュロン・コンスタンタン、オーデマ ピゲ、IWC、ジャガー・ルクルト、パネライ、ブレゲ、ハリヤー・ウィンストン など

www.eye-eye-isuzu.co.jp

カルティエ カスタマー サービスセンター
フリーダイヤル 0120-301-757
受付時間/10:00~20:00 無休(年末年始を除く)

www.cartier.jp